

桃谷中学校

元気アップ通信

令和8年2月

今年度の通信もあと2回。毎月の通信はお役に立てていたでしょうか？残り2回ですが、みなさんの中学生生活が楽しくなるきっかけになればと思います。

では、今月は学習会の案内と新刊案内です。テストを乗り切って本を楽しんでください！

1・2年生対象自主学習会

1・2年生を対象に学年末テストに向けた自主学習会を開きます。

参加希望の方は必ず担任の先生に提出してください。

19日（木）20日（金）図書館 放課後から17時まで

学年を締めくくるテストです。納得のいく点数をめざして頑張りましょう！

そんなのあるんだ～辞書の世界

辞書？辞典？あれ、事典？字典？どう違うの？

調べてみると、辞書と辞典はほぼ同義語で、辞典は辞書よりもやや新しい呼び方、のようです。が、辞書は『～辞典』のように書名として使われることがなく単独で使われている。ということがわかりました。

では辞典と事典と字典はどう違うのか。

辞典は、主に言葉の意味や用法を解説する辞書で、国語辞典や英和辞典などがある。

事典は、物事や特定の分野の知識を解説するもので、百科事典や専門事典がこれにあたり事柄を解説している。

字典は、その字の使い方や読み方、正しい形を解説している。

そして、桃谷中学校の図書館には以前から気になっている辞書があります。『数学解法事典』旺文社『場面設定類語辞典』フィルムアート社など、ある特定のテーマに特化した辞書が10数冊あります。

そんな中にもう1冊変わった辞書が仲間入りしました。その名も、

『三省堂国語辞典から消えたことば辞典』三省堂です。

辞書は何年かに一度、社会の変化や言葉の進化にあわせて内容を見直し間違いを正したり、新しい言葉を追加したりして新しくなります。これを改訂（かいてい）といいます。

新しい言葉を追加するということは、当然消される言葉も出てきます。

そんな消えたことばが集まって辞書になりました。

みなさんはこの辞書に載っている「メインイベント」の意味わかりますか？このことばをこの辞書に載せた三省堂。「やるな」と思いました。



今年度最後の新刊案内

今年度最後の新刊が入ってきました。三年生の人にとっては卒業間近で申し訳ないですが、少しでも手に取って見て欲しいと思います。

今回入って来た本は、小説はもちろんレシピ本、コミック等などバラエティーに富んだラインナップとなっております。

今回はその中でも特に気になる本を紹介していきたいと思います。

まずは

『コーダのぼくが見る世界』 五十嵐大 紀伊國屋書店



「コーダ (CODA)」とは「children of Deaf Adults」をもとにできた言葉で「耳の聴こえない、あるいは聴こえにくい親たちの元で育った、聴こえる子どもたち」を意味します。

日々の通訳、聴こえない親とのコミュニケーション、母語としての手話、手話歌や批判的な言葉との付き合い方、マイノリティとして生きること。作家である著者が、幼少期の葛藤や自身のなかにある偏見と向き合いながら、コーダの目で見えた世界を綴る。

あわせて『音のない理髪店』一色さゆり 講談社 も読んでほしい。

日本初のろう学校理髪科を卒業し、徳島で理髪店を開いた著者の祖父の半生を、孫である小説家の視点で描く物語です。



つぎは

『栄光のバックホーム』 中井由梨子 幻冬舎



昨年11月に映画化され観客動員数も100万人を突破するなど大ヒットしている作品。

阪神タイガースにドラフト2位で入団し、将来を期待されるも21歳で脳腫瘍を発症した横田慎太郎。後遺症に苦しむ中、引退試合で見た「奇跡のバックホーム」。

伝説のプレーから4年後、横田は28歳でこの世を去った。阪神はその年に38年ぶりの日本一。歓喜の中心で舞ったのは、横田選手のユニフォームだった。人々に愛され希望となった青年の生涯が母親目線で描かれています。絶望と挑戦、そして絆。感涙のノンフィクションストーリー。

最後は

『ここで唐揚げ弁当を食べないでください』 小原晩 実業之日本社
自費出版（著者が自ら費用を負担し本を出版する方法）がまさかの1万部突破！商業出版（出版社が費用負担）となり5万部を突破した伝説的ヒットのエッセイ集。

ここでなら誰にも見られないだろうと表参道の建物と建物の間で某コンビニで購入した唐揚げ弁当を毎日のように食べていたら、ある日『ここで唐揚げ弁当を食べないでください』と張り紙が出されていた。という実際にあった話が綴られている。

一生懸命生きれば生きるほど空回りするすべてに人に。

